

授業科目名	看護過程			担当教員	阿部 オリエ、小手川 良江	
開講年次	2年前期	セメスター	3	時間数(単位数)	45 (2)	
必修選択	必修	授業形態	演習	使用教室		
授業の目的	看護の対象をホリスティックに捉え、対象の持つ健康上の課題を科学的にアプローチするための看護過程について、基盤となる知識と方法を学ぶ。また、演習を通して看護過程を展開するための基礎的能力を身につける。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは何かについて説明できる。 2. 看護の本質と看護過程との関係について説明できる。 3. 看護過程の各段階について説明できる。 4. 看護過程を展開するための基礎的能力を養う。 5. 看護実践における看護過程の意義について考察できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	看護過程とは何か (1)：定義と特徴、意義、諸段階	講義	予習：事前学習課題について春休み期間中にノートにまとめる テキスト p206-226 までを熟読し、ポイントをおさえる	90分	阿部	
2	看護過程を展開していくための事例学習を深める (1)	講義	予習：事例に関連した人体の構造と機能、疾患、等について学習する	60分	小手川	
3	看護過程とは何か (2)：看護の発展と看護過程、看護診断の考え方	講義	予習：テキスト p226-243 を熟読し、ポイントをおさえる	60分	阿部	
4	看護過程を展開していくための事例学習を深める (2)	講義	予習：事例の病態・基本情報についてまとめる	90分	小手川	
5	看護の本質と看護過程との関係： 看護における人間の捉え方、ゴードンの機能的健康パターン	講義	予習：ゴードンの機能的健康パターンについて調べる	60分	阿部	
6	第一段階 (アセスメント)：(1) アセスメントの意味と枠組み	講義 演習	予習：テキスト p226-238 を熟読し、ポイントをおさえる 「栄養 / 代謝」のクラスタに取り組む	60分	阿部	
7	* 7 - 21回は、看護過程の各段階について、講義と並行してグループ別事例演習を行う [担当教員による各クラスタのフィードバック]	講義 演習	予習：「栄養 / 代謝」完成	60分	阿部	
8		演習	予習：「活動 / 運動」完成	60分	担当教員	
9			予習：「健康知覚 / 健康管理」完成	60分	担当教員	
10			予習：「排泄」「睡眠 / 休息」「認知 / 知覚」「自己知覚 / 自己概念」完成	60分	担当教員	
11			予習：「役割 / 関係」「性 / 生殖」「コーピング / ストレス耐性」「価値 / 信念」完成	60分	担当教員	
12	第一段階 (アセスメント)：(2) 関連図と全体像	講義	予習：テキスト p238-239 までを熟読し、ポイントをおさえる、アセスメントの完成	60分	阿部	
13	[関連図、全体像までのフィードバック]	演習	予習：関連図、全体像作成	60分	担当教員	
14			予習：関連図、全体像作成	60分	担当教員	
15			予習：関連図、全体像完成	60分	担当教員	

16	第二段階(看護問題の明確化): 看護問題のタイプと記述方法、 共同問題、優先順位の設定と問 題リスト	講義	予習:テキスト p239-247 までを熟読し、 ポイントをおさえる、関連図、全体像 完成	60分	小手川
17		演習	予習:看護問題作成	60分	担当教員
18			予習:看護問題完成	60分	担当教員
19	第三段階(看護計画の立案): 目標の設定、介入計画の立案	講義	予習:テキスト p247-252 までを熟読し、 ポイントをおさえる	60分	小手川
20	[看護問題、看護計画までのフィード バック]	演習	予習:看護計画完成	60分	担当教員
21	事例演習のまとめ	演習	予習:看護計画までの完成	60分	担当教員
22	第四段階(実施)・第五段階(評 価)	講義	テキスト p252-256 までを熟読し、ポイ ントをおさえる	60分	小手川
23	看護実践における看護過程の意 義について考察する、まとめ	講義	予習:事例演習評価表を用いての評価	60分	阿部
先行履修 科目					
テキスト	茂野香おる 他:系統看護学講座 専門分野1基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I (第16版). 医学書院, 2015.				
参考文献	渡邊トシ子 編:ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント(第3版). ヌーヴェルヒロカワ, 2011. NANDA International: <i>Nursing Diagnoses Definitions: Definitions & Classification 2015-2017</i> Tenth Edition. 日本看護診断学会監訳: NANDA - I 看護診断 定義と分類 2015-2017. 医学書院, 2015. 開講時、文献リストを配布する。				
準備学修・ 授業外学修	看護の対象となる人間を捉え、必要な看護援助を見出していくためには、人体のメカニズムを 理解しておくことが不可欠となる。事例患者の病態、治療等については既習内容を活用しながら、 自己学習を行い、学習ノートに適宜まとめていくこと。また、テキストの該当ページを予習 したうえで授業に参加すること、事例演習の際は、グループで検討する内容について事前に自己 学習を行った上で参加することが必須となる。グループ別演習では、本授業および関連科目 で習った知識を活用し、主体的、計画的に課題に取り組むこと、他者とのディスカッションを通 して視点を広げていくこと、教員からの個別フィードバックを積極的に求め、看護過程の展開能 力を育成していくことが重要となる。				
科目の 位置づけ	既習の人体の構造と機能、疾病と治療、フィジカルアセスメントなどは「アセスメント」を行う際 必要な知識となる。また、看護技術 I や看護技術 II は、「実施」と主に連動するなど、今まで に学修した全ての知識が必要となる。また、これらの知識を活用しながら問題解決の基本的な 思考を身に着ける科目としても位置づく。本科目を学修した後、実際の対象者で実践する看護 過程の展開実習へとつながっていく。同時に『看護過程』は、いかなる対象においても活用 することができるツールであり、看護職にとって必要不可欠な知識を修得するためにも重要な科 目である。				
ディプロマポリシー との関連	人間の尊厳と権 利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性 を探究する力
		○		◎	
評価方法	演習の取り組み姿勢(40%)、学習ノート(10%)、看護過程の記録物(50%)により総合的 に評価する。なお、遅刻(1点減点)や欠席(3点減点)についても厳重に評価する。				